

商店街の小さな空き地を みんなの場所に変える

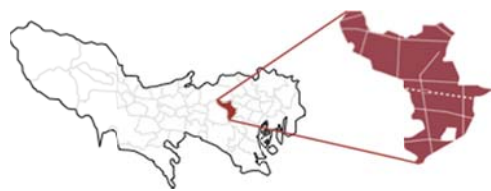


- 活動地域
東京都中野区弥生町三丁目
周辺地区/川島商店街
- 活動期間
2016年6月～継続中
- 活動体制
工学院大学 野澤研究室
UR都市機構
POD株式会社 橘氏
- 活動キーワード
木像密集市街地/公共的空間活用/商店街活性化/空き地活用/暫定利用
- 2018年度活動メンバー
M2 和田健
B4 浅川遥友/内野智貴/久保龍希/桜井諒/宮崎裕子/中野谷あみ/藤田裕
B3 岩澤瑠輝/高山塁/影山秀治/高草木響/松村叡英/阿部勇輝

-活動経緯-

弥生町三丁目周辺の防災整備事業を行う際にUR都市機構が取得した従前居住者用の代替地(現在は不燃化促進用地として防災フェンスが設置されている)を対象に空間活用を行っていった。

昨年度より、市街地全体の価値を高めるような公共性の高い活用を目指し、子ども向けのイベントを中心に、周囲の大人を巻き込んだ企画を展開している。



-対象地の概要-

弥生町三丁目周辺地区は、西新宿から約2km圏に位置している。都心立地にも関わらず、閑静な住宅地であり、下町情緒のあふれドラマや映画のロケ地としても多く使われる川島商店街がある。また、町会や商店会を中心に地域のコミュニティ活動が盛な地域でもある。

しかし、木造住宅の密集する市街地は狭あい道路や行き止まり道路等が多く、災害危険性が高い。また、商店街は高齢化によるシャッター店舗増加の傾向が見られる等の問題を抱えている。

-昨年度までの活動-

利活用の方針として「多世代が集うコミュニティスペース」と「商店街と連動したイベントスペース」を掲げ、まずは商店街と連携し子ども向けの三つのプレ企画を行なった。そして、12月には「あたまを使うあそび」として大きな立体どうぶつしょうぎイベントを行なった。

2018年度の活動内容

6月に「アートを体験するあそび」として「らくがきあそび」を実施した。その後、敷地整備を行う計画を立案したが、安全上の理由で敷地内への侵入が難しくなった。そこで、UR 都市機構と敷地の前面フェンス等を利用した新たな活用方針を立て、地域の方の意見も踏まえた活用案を検討中。

【らくがきあそび】

防草シートやフェンスの更新に際し、その前に落書きをしておこうという企画を実施した。ガムテープやペンを用いて自由に落書きを体験してもらい、作品はしばらくの間敷地に展示することで日常における活動認知を行った。

また、参加者や保護者の方にアンケートを実施し、企画の認知度やイベントに参加しやすい日時などの調査を行なった。

【敷地活用の代替案を検討】

敷地の前面を利用した4つの活用案を検討し、通り沿いのフェンスを加工していく方針に決定した。また、参加者の増加や活動の周知等のこれまでの成果も踏まえ、断続的なイベント活用から、日常的に利用できるコミュニティスペースとしての活用を想定し、平成32年度末までの暫定利用と位置付けた。また、地域に根付いた空間を作り出すために、活用の検討・しつらえの製作段階から地域の方々に関わって頂く方針を立てた。

【意見交換会】

川島商店街振興組合の会合の時間を借りて、約1時間の意見交換会を行なった。そこで、これまでの成果や、プロジェクトの方針、活用の想定やイメージを地域の方を共有し、基本的な質問から、「どんな機能が欲しいか」「どんな人に使ってもらいたいかな」までの意見交換を行なった。



■6月3日、5日
プレ企画第2弾
「らくがきあそび」



■2月25日
意見交換会
(コスモ会館にて)

